静私幼だより

- 教育研究大会
- おやこんぼ
- 特集『親と子の心を育てる幼児教育』（その1）肥後功一
- コミュニティ（保育の窓）
- 教員養成校訪問/浜松学院大学短期大学部
- 次世代リーダー養成研修会
- 健康随想/今木久子（子育て支援カウンセラー）
- 1年間のナイスショット特集

こどもがまんなかPROJECT
只今全国展開中

NO.170
2014③
SPRING

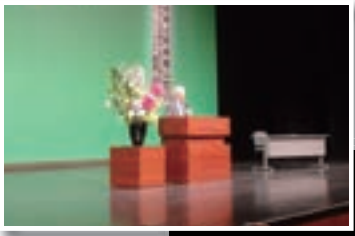
第29回 静岡県私立幼稚園教育研究大会《全県大会》

平成26年2月4日、グランシップ（静岡市）に於いて、静岡県私立幼稚園教育研究大会が開催され、県下11地区から780名の先生が参加されました。

開会式は、宮下友美惠静岡地区長（研修委員会委員長）の開会の言葉で始まり、相田芳久理事長の挨拶に続いて、長年私立幼稚園に勤務された160名の先生方の永年勤続表彰と優秀教員表彰が行われました。受賞者を代表して五和幼稚園の杉本早苗先生が謝辞を述べられました。

この後、来賓の下山晃司静岡県文化・観光部長、田辺信宏静岡市長よりご祝辞を頂戴し、幼稚園讃歌を全員で歌い開会式を終了しました。

続いて中京大学教授鯨岡峻先生をお迎えして「保育の質の向上を目指して～子どもの心を育てるために～」という演題で記念講演が行われました。「子ども・子育て新システム」は「教育」という言葉に力点が置かれ、「保育」という言葉が軽んじられていることから始まりました。子どもが周りの大人に憧れを持ち、大人の所作を「まねぶ」（まねて取り込む）ようにもっていくのが大切。子どもの心の土台を作ることが保育の質なのだと解説されました。



子どもの心を育てるために、子ども一人ひとりの思いを「受け止める」「認める」「支える」対応をした上で、保育者の「誘い」「導き」「教える」働きが必要になると説明されました。

自身の著書で取り上げている「エピソード記述」についても具体例を数々挙げられ、保育者が「心を揺さぶられた体験」を「人に分かってもらうため」に書くのだと話されました。

●第1分科会

テーマ『幼児にふさわしい体験や活動を考える』～自園の特色を活かした保育環境とは～

発表園／桜ヶ丘幼稚園

助言者／永倉みゆき　常葉大学短期大学部准教授

毎年、園目標と月目標を基に年間指導計画を立て、特色ある保育をしてきた。

その中から、教育課程という3年間を通しての共通した指導案を、統一した見解のもと保育が進められていくように見直し、子どものあそびの環境設定をより充実させる必要があると気付かされました。

そこで、全職員で教育課程を見直すことで、自園の特色を活かした幼児期にふさわしい体験や活動を考え、子ども達が成長していけるように環境構成を考え直しました。すると、友達の輪が広がり、関わりが少なかった友達同士がかかわる姿が見られました。

また、エピソードを書きとめたことで、より教育課程の内容が理解でき保育を見直すきっかけになったり、反省点に気づいたりすることができ、その時期の子どもの成長段階を理解することが出来ました。また、年度によって子ども達の

成長が違うため、保育環境を毎年設定し直す必要があると感じました。さらに、感謝の気持ちを大切にしたり、あたたかい家庭的な雰囲気の中で保育することで、子ども達が主体的に活動したり、穏やかな気持ちを持って生活していきました。今後もこのように1人ひとりの成長を見守っていきたいと発表がなされました。

助言者の永倉先生は、「教育課程は自園で作っていくもの、見直すことで『自園のよさ』が見えてきます」と話されました。

●第2分科会

テーマ『幼児理解と育ちの記録・あそびの考察』～広く、深く、丁寧に保育の質を考える～

発表園／平島幼稚園

助言者／加藤繁美山梨大学大学院教授

日常の保育実践を丁寧に見直し、あそびとは何か、具体的なあそびを通して「子どもの興味関心、教師の指導、人間関係、子どもの表れ、育ちの視点」から『ちょこっと記録』を書き続けながら実践分析を行い、実践記録を作成しています。

3歳児の「ぎっちらこ～ぎっちらこ～」の実践記録からは、子ども達の日々繰り広げられる虚構の世界を大事に心地良く共感し、一緒にあそぶことが大切だと発表されました。

4歳児の「楽しく生き物（カナヘビ）に出会う」の実践記録からは、飼育を通して深く考える力や言葉を育て、他者を取り入れて考える力（我慢する力）の育ちに通じるものにつながったと発表されました。

5歳児の「ひまわり劇場はじまるよ」の実践記録からは、あそびの一つが自信となり「子どもが育つ時は集団も育つ・できないことに挑戦したり、仲間を励ましたりできる喜び」などたくさん共感し、それが子どもの自信となり「やりたい・やってみたい」という気持ちにつながっていくと発表されました。

助言者の加藤先生は、実践記録を書き続けていると見えてくるものがある。書くことで保育者に間ができ「子どもが考えている」ことが見え、それを知ることで保育がより共感的になり、日常の実践が子どもの主体的・意欲的な育ちという方向に繋がっていくと話されました。

●第3分科会

テーマ『子どもの育ちに寄り添う保育を目指して』～共同する力・課題に喰らいつく力・自信を得る為の園目標を考える～

発表園／赤門幼稚園

助言者／高橋功常葉大学准教授

歴史ある園で「長年掲げてきた園目標の意義を考え、今後の保育に生かしていきたい」という思いから、毎日の保育の中で子どものつぶやきを記録していく『つぶやきカード』の記録を実践するという取組でした。つぶやきカードの記録の分析から子ども達の育ちを検証し、教育課程の見直しを行うことで、子ども達に身につけてもらいたい育ちや今後の保育の展望だけでなく、何より子どもに寄り添うことの大切さが報告される研究報告でした。助言者の高橋先生からは、子どもの心の中に育つ、自分を理解してくれているという内面からうまれる『生きがい感』を支援していくことが教師の役割であるというお話を頂きました。

第１分科会

おめでとうございます

平成25年秋の叙勲の受章者をご紹介いたします。

●瑞宝双光章

加藤鉞夫（学）蜆塚幼稚園理事長・園長

第３分科会

第２分科会

おやこんぼ

おやこんぼ推進プロジェクト通信

幼児教育に携わっている者の共通の心配は、《親と子の関わりが短く薄くなっている社会への不安》。そこで、幼稚園みんなが協力して、《親子の絆を強くすることの大切さを提唱していこう》という運動が《おやこんぼ》です。

平成23年度より、全日本私立幼稚園連合会の《こどもがまんなかプロジェクト》の県での具体的な活動として、静岡県私立幼稚園振興協会全体で《おやこんぼ》を実施していくことになりました。少しずつ浸透してきましたが、まだまだ説明不足で皆さんに意図が伝わっていないことを心配し、本年度より『おやこんぼ推進プロジェクト』を発足させ、皆さんに目的・内容そして活動状況を伝えていくこととなりました。

そこでまず先日アンケートを実施して、みなさんからお寄せ頂いたご意見から伝えていきたいと思います。お忙しい中、122園（51％）から回答を頂きました。その中で見えてきたことは、《おやこんぼ》とはグッズを使ってノーテレビ活動をする事と解釈されて、なかなか踏み込めない園が多いということです。私たちは、県下238園の皆さんが同じ活動方法を実施される事は希望していません。ノーテレビ運動は《おやこんぼ》活動の一部と思って下さい。

ノーテレビを実施していると回答された園でも、グッズを利用している園は61％、それぞれの園で工夫して実施している園が39％でした。グッズを利用しなくても親子遊びのプリントを配ったり、保護者のみなさんの感想をとりあげて、とても活発に実施されている園もあります。

またノーテレビは実施していないが、おやこんぼの目的には賛成して、保護者会や講演会、おたよりや絵本の貸出活動、親子遊び会などで、親子のふれあいの大切さを伝えているという園も30％ありました。大変素晴らしいことで、それらも活動の一部とさせて頂きたいのです。さらに各地区で実施されている子育てフェアも《おやこんぼ》の一つとして活動していただければ、より大きな働きとなることでしょう。

つまりやり方は様々、大切なのは『親子の絆を大切にする』という目的を共有して県全体で取り組んでいくことだと思います。

みなさん、《おやこんぼ》で子どもたちの笑顔をたくさん増やしていきましょう。

おやこんぼ事業報告

親子のかかわりを強くするために静岡県の私立幼稚園で実践されている「おやこんぼ」。多くの幼稚園でいろいろな取り組みをされているようです。今回は磐田市の龍の子幼稚園を訪ね、教頭の青木英里子先生に園の取り組み方を聞きました。

●いつから「おやこんぼ」を実践していますか？

平成23年5月から始めました。

●最初はどうでしたか？テレビを観ないことへの抵抗はありませんでしたか？

初回が日曜日でしたので、正直どのくらいの家庭が実践してくれるのかな？と少し不安な気持ちがありました。でもほとんどの家庭が実行してくれました。「テレビに頼っていたのは親自身ということが分かりました」という親の声や「毎日、おやこんぼが良い」という子どもの声が多数寄せられたので、勇気を持って継続できました。

●それ以降も順調でしたか？

はい、半年くらいで定着しました。でも親からは関わり方のヒントを欲しいという声が聞かれたので、親まかせでなく、幼稚園から遊び方のヒントを出そうと考えました。

●具体的にはどんなことですか？

年少児は、間違い探し（①）。年中児は、しりとり遊び・なぞなぞ遊び（②）を幼稚園で作成して親子で遊びます。年長児はレシピ（③）を配布しておやこんぼクッキングに親子で挑戦します。

これを親が考えて変化させたり、発展させて遊ぶようになり、子ども達だけでなく、親も「おやこんぼの日が待ち遠しい」と言うようになりました。

●良く工夫されていますが、先生方に負担はないですか？

最初何が良いだろうと考えましたが、今は「ここの間違い気が付くかな」とか、「これじゃ、しりとり難しいから絵のヒントを出そう」、「季節を感じられるテーマ・旬の食材を使う内容の物にしよう」など、職員間でも楽しみながらしています。

●おやこんぼで他に気を付けていることはありますか？

「明日楽しみだね」と呼びかけます。スクールバスと玄関にも「おやこんぼの日」を掲示し、幼稚園の正門、駐車場には「おやこんぼの日」ののぼり旗（④）を設置し、みんなで意識をします。

●おやこんぼとは何でしょう？

テレビを観る時間を、親子で関わる時間に替える日。関わりの中でたくさん触れ合い、たくさん会話のキャッチボールをし、親子の絆をいっぱいいっぱい強くする日だと考えています。親子でゆったりと向き合う時間を幸せタイムにしてほしいですね。私立幼稚園だけでなく、県内の公立幼稚園、保育園、小中学校にも普及して行ってほしいです。

●今後おやこんぼ運動が広がっていくと良いですね。ありがとうございました。

特集

親と子の心を育てる幼児教育 1

親子をめぐる今

島根大学理事・副学長
肥後功一

リハビリテーション病院や国立特殊教育総合研究所に勤務の後、島根大学教育学部講師、助教授、心理・発達臨床講座教授を経て現職

専門分野 / 教育臨床心理学・発達臨床心理学
研究テーマ / 教育（保育）におけるコミュニケーションとその障害，心理臨床相談・教育相談・発達相談の理論と方法，家庭における子どもの育ちと“ことば”の問題

大学・大学院での主な担当授業科目 /
教育臨床心理学概説、障がい児者臨床心理学特論、臨床心理査定演習など

所属学会 / 日本心理臨床学会・日本発達心理学会・日本特殊教育学会

1 出雲神話と水の都から
～～自己紹介にかえて～～

静岡県私立幼稚園の皆様、こんにちは。これから数回にわたって、人生の土台となる大切な幼児期に、子どもの心の育ちをどう支援していくのか、そのために幼稚園教育は何をすべきなのか、また保護者・家庭とどんなふうに連携していく必要があるのか…といった重要なテーマについて、お話をさせていただきます。今回はその初回ですので、少しだけ自己紹介をさせてください。

ここ出雲國（島根県の松江市と出雲市を中心とする地域）は出雲神話の地であり、今でも旧暦10月は（神無月ではなく）神在月（かみありづき）と呼ばれます。日本全国の八百万（やおよろず）の神様が縁結びの協議をするため出雲大社に集まるからです。昨年はこの出雲大社で60年に一度の大遷宮が執り行われました。

私の住む松江市は出雲大社から車で1時間ほど東、宍道湖・中海という二つの汽水湖に抱かれた水の都です。1890年、来日して間もないラフカディオ・ハーン（1850-1904日本名は小泉八雲）が、島根尋常師範学校（現在の島根大学の前身）の英語教師として、14ヶ月ほどの間、この地で暮らしました。小泉八雲は「耳なし芳一」「雪女」「むじな」などの怪談で有名ですが、「知られざる日本の面影」（1894年出版）などの著作を通じて広く海外に日本の風土や文化を紹介した人でもあります。ものすごいスピードで近代化を図ろうとしていた当時の日本。その勢いの中、山陰の地にひっそりと残る「知られざる日本」の風景や人々の暮らし、そこに息づく言霊の世界（怪談などの伝説）をハーンは好ましい「日本の面影」として書き留め、松江を「神國の首都」と表現しています。

松江市の人口は20万人（沼津市くらい）、出雲市は14万人（藤枝市や焼津市くらい）、新幹線も通らない本当に小さな地方都市なので、今でもどこかしら時間の流れが違うような神秘的な風景や空気が残っており、近年のパワースポットブームもあって、訪れる人も増えているようです。私自身は、学生としての東京暮らし、静岡県伊豆長岡での最初の就職、そして神奈川県久里浜での次の仕事を経て、22年前にこの松江に移り住みました。生まれ故郷の福岡県よりも長い年月を、ここ島根で暮らしたことになります。

松江城

熊野神社

宍道湖夕景

❷ この20年―親子の心をめぐる今の状況

私が島根大学に着任する少し前の頃、心の問題を専門に扱う新たな資格として「臨床心理士」が誕生しました。こうした心理専門職の確保が求められるようになった直接の背景は、学校における不登校児童・生徒が目立って増えてきて、社会問題となってきたことがあります。発達相談、教育相談、障がいのある子どもの支援、保護者相談といった私の専門領域の知識や技能を島根大学教育学部での教員養成教育に活かすとともに、島根県の学校教育現場の支援に取り組むように…というのが、私の着任時に求められたことでした。そういう事情で、学校教育現場に少しずつ通いはじめた私は、すぐにいくつかの事柄に気がつきました。それはたとえば次のようなことです。

●ある子どもの問題が小さい頃からどんなふうに推移してきたのか知りたいと思っても、小学校には多くの保育所や幼稚園から就学していて、あまり連携がとれておらず情報が少ない。

●好きなこと、夢中になれることなどが見えにくく、指示されれば取組むが、自分から何かに積極的に取組む意欲がみえにくい子どもが少なくない。

●従来からの分類に当てはまらない「気になる、わかりにくい子ども」が増えている。

●仲間関係をうまく作れない、常に限られた少人数で固まろうとする、関係が一度崩れたらなかなか修復できない…など友だち関係のトラブルが多い。保護者同士のコミュニケーショントラブルにも同じパターンがみられる。

●生活習慣や学習習慣の形成に協力が得られない保護者、子どもの様子について学校側が感じていることを伝えても共有することが難しい保護者などが増えてきた。

もうみなさんおわかりのように、これらが今日ではいわば当たり前のように言われるさまざまな教育問題のはしりだったわけです。こうした問題にきちんと向き合い支援していくには、発達の出発点に遡って考える必要があるのではないか…そう思った私は研究のフィールドを次第に保育所や幼稚園に移し、観察や先生方との協議、保護者との相談を積み重ねてきました。

グローバル社会を生き抜き、未知の問題に取組むイノベーションの力が求められる今日、小学校での英語教育の充実など「早期から子どもを学習者として鍛える」方向が加速しそうです。だからこそ、その土台としての幼児期に私たちは何をどう育てるべきなのか、この連載ではその基礎基本をみなさんとご一緒に確かめていきたいと思います。次回をどうぞお楽しみに。

憧れの幼稚園教諭になって

ちどり幼稚園　植田真理子

中学生の頃から夢だった幼稚園教諭になり、早くも9ヶ月がたちました。

私は年中「さくら組」の副担任を任され、主担任の先生と共に、毎日楽しく子ども達と過ごしています。思えば、4月当初は不安という文字しか私の頭の中にはなく、自分が先生という立場でやっていけるのか、しっかり指導していけるのかと心配でした。しかし、子ども達の元気いっぱいの姿や、笑顔で話しかけてきてくれる姿を見ていたら、不安な思いも徐々に薄れていき、自分に自信を持って頑張っていこうという前向きな気持ちになることができました。

この9ヶ月の間に、日々の保育をはじめ、園外保育や運動会、音楽発表会など様々な行事を経験しました。その中、音楽発表会の総練習時のお遊戯で、子ども達の頑張って真剣に踊っている姿を見ていた時、不意に涙がこみ上げてきました。4月当初に比べると子ども達は本当に立派に成長したな、よく頑張ったなという思いでいっぱいでした。そんな子ども達の姿を見ていたらとても嬉しくなり、改めてこの職業に就いてよかったなと強く実感することができました。

保育の中で、私が主として子ども達を指導していく時もあり、その都度失敗を重ねてしまい、迷惑を掛けてしまうことも多くありました。いざ子ども達の前に立って活動を進めなくてはならない時に、思うように動けず、結果子ども達を困惑させてしまったり焦らせてしまい、反省の連続でした。いろいろなことを経験すると同時に、改めて幼稚園教諭の難しさを感じることも増えてきましたが、主担任の先生をはじめ、先輩の先生方の丁寧なご指導や、困った時などに話を聞いてくださるおかげもあって、毎日子ども達と笑顔で接することができています。

4月から今までたくさんのことを経験すると同時に、子ども達も大きく成長していく姿を見られてとても嬉しく思います。今後も笑顔を絶やさず、子ども達と共に成長していきたいと思います。

幼稚園教諭になって

西富士宮幼稚園　佐野美波

幼い頃からの憧れの職業であった幼稚園教諭。西富士宮幼稚園に勤めだし、早1年となりました。4月当初は、憧れの職業に就けた喜び、子ども達から「先生」と呼ばれる嬉しさを感じつつも、緊張や不安、戸惑いを感じる毎日で、ひたすら先輩の先生についていこうと必死であったことを思い出します。また、泣いている子どもへの接し方や子ども達への声の掛け方、保育方法など沢山の悩みを持ちながら、日々過ごしてきました。

しかし子ども達にとっては、例え1年目の先生でも、立派な先生です。嬉しい時には「あのねあのね…！」と声を掛けてくれ、困ったときには助けを求めてきます。つまり、子ども達にとって「先生」という存在は心のよりどころになるのです。子どもの目線に立ち、しっかりと気持ちを理解し、責任感を持って堂々と保育していくことが重要であると感じました。

現在私は、年中児クラス35人の副担任をしています。初めてのクラスの子ども達と共に、運動会や音楽遊戯発表会など大きな行事を成功させてきました。沢山の行事を行う中で私自身学んだことがあります。ある日、クラスで行事に向けて個人練習をしている時間、ある子どもが「遊びたいな。」とつぶやいた言葉に対し、同じ役のお友達が「35人みんなで一緒に頑張ろうよ！」と声を掛けたのです。様々な行事を成功に繋げていくことはとても大切なことですが、それだけではなく、行事を行う上での練習背景も重要となります。幼稚園教諭は、子ども達一人一人の心身の成長を考え、指導していくことが大切であると感じました。つまり、子どもだから「できない」の言葉でまとめるのではなく、一人一人の子どもを最後まで見捨てず、精一杯応援し指導していくことが大切です。しっかりと気持ちを込めて指導していけば、それが自然と信頼関係へと繋がり、子ども達にも伝わると感じました。

幼稚園教諭とは、子ども達と共に経験を重ね、成長していくことの出来る魅力溢れたやりがいのある仕事です。私はまだまだ幼稚園教諭になったばかりです。これから先、経験を重ねても、決して馴れ合わずいつも子ども達と向き合い、変化を見逃さない幼稚園教諭でありたいと思います。そして、笑顔いっぱい元気いっぱいをモットーに、職員一丸となって「子ども達一人ひとりが輝く子ども」を合言葉に日々頑張っていきたいと思います。

感謝の気持ちを大切に

象山幼稚園　徳丸 璃紗

私が幼稚園教諭として働き始めて早10ヶ月が経ちました。私がここまで、子ども達に大きなけがもなく保育できたのには、たくさんの人の支えがあったからです。

4月当初の私は、憧れていた幼稚園教諭になれた喜びでいっぱいでした。しかし、大きな失敗をして、幼稚園教諭の責任の重さや難しさを深く感じる出来事もありました。

ある月のお誕生日会で、誕生月の子を出席させずに忘れてしまうという失敗をしてしまいました。その子は、自分が誕生月だと言えずに、誕生会の間、寂しい思いをしていたに違いありません。『子ども達に良い影響を与えられる幼稚園教諭になりたい』と思っていたのに、逆に子どもの心を傷つけてしまいました。

失敗を繰り返す日々の中で「私がこの子達の『先生』で良いのか」、「子ども達に悪い影響を与えていないだろうか」と、不安になることもありました。その時に支えてくれるのは、先輩先生方や保護者の方々、そして子ども達です。

私が、保育が上手くいかず悩んでいる時、先輩方は、自らの経験をふまえた上で、的確なアドバイスをしてくださいます。子ども達は、毎朝笑顔で「先生、おはよう！」と声をかけてくれ、「今日も一日頑張るぞ！」と気持ちが入ります。壁面が変わった次の日の朝に「これ、かわいいね！」「おいしそうだね！」と、子ども達が喜ぶ姿を見て「次はこうしてみよう」、「もっと子ども達が喜ぶものを作ろう」と、意欲が湧いてくるのです。子どもたちの笑顔は、私の原動力そのものです。そして、まだまだ未熟で至らない点も多々ある私を、保護者の方は温かく見守り応援してくださいます。

私は今、象山幼稚園の教諭として働けていることに、心から喜びを感じています。もちろん嬉しいことばかりではありません。辛いこと、苦しいこと、悔しいこと、これからたくさんあると思います。しかし、この恵まれた環境で幼稚園教諭として働かせていただいていることに感謝し、一日一日を大切に子ども達と過ごしていきたいです。

私の心は億万長者

横内幼稚園　植野 麻由実

幼稚園教諭になって気付けば19年、自分でも驚いています。

思い返せば高校時代の恩師が「心の金持ちになりたいのなら教師になるといい」と言っていたのを思い出します。私も幼い頃から幼稚園の先生に憧れてずっと夢見てきました。「子どもの成長に携わる仕事がしたい。そして私も心のお金持ちになりたい」という思いが強くなり、この道を目ざしました。

新任の頃は、とにかく保育をする事に必死でしたが、空回りばかりで、思い通りの保育が出来ず、自分の力量のなさに悩み涙を流した事もありました。それでも子ども達は「先生大好き！」と満面の笑顔で私を待っていてくれたり、日々の子どもの成長を見て喜んだり、保護者から感謝の言葉をいただいたり、先生方に励まされ今日まで続けられることができました。

今まで多くの卒園児を送り出しましたが、以前は卒園してしまうとなかなかその後の成長を見る事が出来ませんでした。しかし、最近では中学・高校生が幼稚園児との交流を持つ場が増え、教え子に会う機会があり、とても嬉しく楽しみでもあります。当時の面影を残しながらも思春期の子ども達は身体も大人に近づき、新たに夢を持ち立派に成長している姿に会い「少しは私も役に立てたかな…」と考えたりすることがあります。

以前、私の教え子が、幼稚園教諭になり、研修でばったり会い「先生みたいになりたくてこの職に就きました」と声をかけてくれました。未熟ながらも私の保育がその子どもの心に深く残ってくれたのだと思うと大変嬉しく、この仕事に就いて本当によかったと思いました。今では同業者として仕事をしている事実に何だか不思議な感じもしますが、こんなに嬉しい事はありません。

現在私は、4歳児の担任をしています。毎日雲梯や鉄棒など夢中になって「先生ー、見てー」と自分の頑張る姿を何度も見せてくれる子ども達は、また十数年後どんな大人になっているのか楽しみです。多くの子ども達からたくさんの感動とパワーをもらい、私の心はもうすでに『億万長者』と言ってもいいでしょう。今こうして続けられる環境に感謝し、体力の続く限りこの仕事を続けていきたいです。

教員養成校訪問

平成26年1月10日（金）午後、浜松市中区住吉の浜松学院大学短期大学部を訪問し、同校の先生や卒業生、一年生の学生さんにお話しを伺いました。

まず、先生からは、幼児教育科の定員は140名で、今年度の内定状況は、私立幼稚園59名、私立保育園54名、社会福祉施設19名、認定こども園3名、公立幼稚園等へ若干名との説明がありました。就職試験の時期では保育園では早いところで6月など、年々早くなる傾向もあるようでした。

また、学生から見ると、地区のガイダンス等で園と実習などを選択するきっかけが生まれるのでありがたいと述べられました。

園での実習ですが、経験豊富な教員から見ると実習生は歯がゆく感じるようだが、厳しい指導をすると「幼稚園で仕事をするのは自分にはきつく、むしろ年齢の少ない子の保育園が向いている」と志望先を変える学生もあるので、できたときはむしろ認めて、ほめてほしいとおっしゃっていました。

続いて、幼稚園で働いている卒業生2人と学生10人の方々と話し合いをし、卒業生には志望の動機を、学生さんには入学の動機などを伺いました。

入学動機は、皆さん「子どもと接する職業に就きたい」、「母園の先生になりたい」でしたが、園での実習については「実習で色々なことを学ばなければならないと知り、不安に思った」との感想がある一方「実習し、幼稚園に就職したい気持ちが強くなった」との発言もありました。

ピアノについては、同校のご指導もあるのか、皆さん熱心に練習しているようでした。しかし、不安に感じている学生さんもいるようでしたので、ピアノは大事だが、人間性や、礼儀、まじめさを合否判定の評価の基準にしている園が増えてきていると助言しました。

また、私立幼稚園は研修が充実していること、幼児期の教育の大切さや子どもの成長を見守る手応えのある仕事であることなど、私立幼稚園のPRなどをさせて頂きました。

人材難は私立幼稚園にとって大きな課題ですので、園や学生があまり負担と感じないような実習を取り入れるなど、学生にとって「幼稚園が魅力のある職場」となるよう、私達もできることから実施していく必要があると感じました。

同校は、浜松地域で幼児教育に携わる教員の養成に長い実績をお持ちで、私立幼稚園の経営を十分に理解されており、落ち着いた印象を受けました。最後に、お忙しい中私達のために時間を割き、お話を聞かせて頂いた皆さんにお礼を申し上げ、同校を後にしました。

支えてくれた皆に感謝！

清水区私立幼稚園ＰＴＡ連合会会長
さくら幼稚園　坂口 菜津海

私は小学校2年生の息子、年中の娘を持つ母親です。今年度たまたまの偶然が重なり、思いがけず清水区私立幼稚園ＰＴＡ連合会会長という役を引き受けさせていただきました。戸惑い、不安に思う私を見て主人が「『役が人を育てる』という言葉があるから前向きに考えて、頑張ってみたら？」と声を掛けてくれ、「やってみるのもいいかなぁ」と素直に受け止め、活動をスタートさせました。

清水区私立幼稚園ＰＴＡ連合会は、清水区の18の私立幼稚園から父母の代表が一名ずつ派遣され、その18名のメンバーで役割を分担し運営しています。そして、清水区の私立幼稚園に子どもを通わせる保護者同士の親睦を図るための活動をしています。忙しい中で予定を合わせて会合を行い、イベントの企画運営をし、事務仕事は自宅に持ち帰ってこなし…と18名のメンバーそれぞれがとても忙しく活動しました。しかし、会合やイベントを重ねていくうちにメンバー同士の関わりが深まっていき、打ち解けて、皆から自然な笑顔がでてくる何とも言えない嬉しさを会長として感じることができました。

また私自身、色々なことを落ち着いて考える機会を頂けました。会合やイベントで挨拶をさせていただくことが度々あったのですが、その都度自分の頭の中、心の中を整理してみました。普段の忙しい生活の中で立ち止まって考えることはなかなか難しいのですが、今年度は会長という役の力を借りて、少しですが自分の思いを見つめ直すことができました。

今年度の活動も終盤に入り、振り返り反省する時期になりました。今思うことは、会長の役を与えていただいたことは本当に私にとってラッキーだったということです。様々な幼稚園の先生方や保護者の皆様とお話をする機会を頂いたことにより、自分自身の考え方の幅が広がったように思いますし、役をやりこなす大変さと醍醐味を身をもって感じることができました。活動を支えてくれたメンバー、導いて下さった先生方、そして家で書類とにらめっこする私を励ましてくれた家族に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

幼稚園生活を振り返って

学校法人　赤門学園　赤門幼稚園
父母の会会長　深谷　英恵

「ご懐妊、おめでとうございます」

あの日から、どれほどの時間が過ぎたのでしょうか。まだ、抱っこ癖が抜けない下の子も、3月で卒園。そして、4月には1年生です。子どもの成長は、早いものですね。

昨年度から会長として2年間務めてきた私でも、実を言うと、父母の会に入る前は、ママ友と呼べる人がいなくて、身近で子育ての相談できるのは、母だけでした。そんな私に、きっかけをくれたのは、子どもです。

笑顔で園から帰ってくるたびに、キラキラした目で、いろんな話をしてくれました。「今日は、時計大魔王が来て怖かったよ」「あのね、水遊びで先生の背中に水かけちった」とか、いろいろと…。そんな話を聞くたびに「時計大魔王？誰それ？」、「先生に水かけていいの？」と頭の中が「？」でいっぱいになりました。

しかし、話を聞いているうちに、幼稚園ってどんな所だろうと、だんだん興味が沸いてきて、もっと私も幼稚園に関わってみたいと思う様になり、父母の会に入ったというわけです。

今では、私も役員になったおかげで「時計大魔王」の正体も知ることができましたし、何より多くの繋がりができ、ちょっとしたことでも相談できるママ友ができました。

そして、今年度は浜松市私立幼稚園ＰＴＡ連絡協議会の活動も務めさせていただきました。他園の会長さんたちとの交流も、とても勉強になりましたし、様々な講演会や会議に参加させて頂いたおかげで、私たちの知らない所で、子どもたちや親のために話し合い、活動をしてくださっている方々の存在を知る事ができました。

どこの幼稚園にも、些細なことで子育てに悩んで相談相手を探しているお母さんや、繋がりを作るきっかけを待っているお母さんがいると思います。そんな方は、ぜひ積極的に行事へ参加してみるのも一つの方法ですし、機会があれば役員として、幼稚園に関わっていただきたいです。そして、来年の今頃、「参加してよかった」、「経験して本当に良かった」と思ってくれれば幸いです。

次世代リーダー　養成研修会

平成26年1月14日（火）、東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ、アモーレにおいて『平成25年度次世代リーダー養成研修会』が開催されました。研修会担当の経営委員会を含め45名が参加しました。さっそく入室すると、受講前に美味しそうな同ホテルオリジナルの出来立てパンとコーヒーが用意されており、ご自由にとの事でリラックスした雰囲気で研修が始まりました。

研修は「トレーニングディズニーウェイ」、ディズニーキャスト（全従業員）の教育に用いている「企業理念の浸透方法」や、「職場環境づくり」について学びました。

始めに「企業においての人の重要性」ですが、ディズニーテーマパークの製品とキャスト（全従業員）が提供しているものは【ハピネス Ｈａｐｐｉｎｅｓｓ（幸福感）】であり、ゲスト（お客）はこの気持ち（幸福感）を受け取ることができる　とのことでした。企業が消費者に提供している製品は何でしょうか?そして消費者に提供されるまでに、関わる人は誰でしょうか?と今度は自問自答する時間を与えられ、参加者は自園を振り返り考えてみました。

企業にとって「人」は財産です。人のやる気やアイディアの集結が組織力を作ります。組織力を発揮し、企業を成功に導いていくためには、従業員全員が同じ方向へ向かう必要があり、そのためには企業理念や経営方針などを共有する必要がある事を学びました。

ディズニートレーナー（従業員を教える立場の人）はトレーニー（教わる人）に行動規準の4つの鍵を優先順位で、

SAFETY（安全）
COURTESY（礼儀正しさ）
SHOW（ショー）
EFFICIENCY（効率）

これをSCSE自分で判断できるように教育している事を知りました。ディズニートレーナは現役のキャストから選ばれるそうで、キャストは9割がアルバイトで、2万人いるとの事でした。

ディズニートレーナーが心がけていることは、ここで働くことが、（楽しい）（素晴らしい）と感じてもらえる体験を取り入れる。そしてトレーナーが体現して見せる事が必要である。

トレーナーがトレーニーに教育する上でのポイントは、

❶その人に一番あった覚える方法を見つけ出し、取り入れること。
❷トレーナーとトレーニーのコミュニケーション、ボディランゲージが必要であること。

①トレーナーはトレーニーの情報を知り、育成計画をたて、教える内容を細分化すること
②教える仕事の内容を確認し、スケジュールを立てること
③教える業務内容を細分化すること

その他、教える側と、教わる側の上下関係を意識させないようにすること、繰り返し教える場合、トレーニーが出来ないときは担当を替えてみること、言い方を替えてみること、担当を外れてみること、相手の考えを聞いてみること等、様々な方法を取り入れることであって、トレーニーが出来ないのは、トレーナーのせいなのであるとのことでした。

そこでサンドイッチ法（褒める→指導→褒める）を取り入れるとトレーニーのやる気を引き出すのにとても効果があるとのことで、トレーナーが実践してくれました。実際にサンドイッチ法をやってみて効果を実感しました。相手の良いところを褒めてから指導する。そしてまた褒める方法である。参加者からは「この方法は、明日からでもすぐに取り入れよう」との声も聞こえてきました。最後に、「企業（職場）において、あなたはどの様な育成者（トレーナー）になりますか?

そして「楽しい職場環境作り」のために、あなたは何をするのでしょうか?」と聞かれ、研修を締めくくられました。参加者は「自園において職場の教職員が価値観を共有するために自分が出来ることは何か」「職場の皆が同じ方向をむくために自分は何をしなければならないか」を改めて考え、実践する意欲を生じさせる貴重な研修内容で、私立幼稚園を担っていく後継者の先生方にはとても有意義で実りある研修でした。

健康随想

2

心の健康を考える

幼稚園時代を振り返って思うこと

子育て支援カウンセラー　今木久子

私は幼稚園になかなか馴染めない子どもでした。家ではおてんばと言われ、近所では一番年上だったこともあってお山の大将のように振る舞っていましたが、幼稚園という新しい世界で大勢の見知らぬ子どもたちに圧倒されてしまい、他の子どもたちと関わることができず、教室のロッカーの中に幼稚園カバンと一緒に座って過ごしていたこともあったと記憶しています。体は一番大きいぐらいだったので、今考えると不釣り合いな光景だっただろうと思います。月に何度か熱を出しては、親が過保護だったことも手伝って、長く休むことを繰り返しているような幼稚園時代でした。1カ月休まず行けるようになったのは年長になってからのこと。出席シールが1カ月分全部貼られたページを何度も開いては見返してちょっと誇らしげな気分になっていたのを思い出します。この仕事をするようになって幼稚園に来るようになり、子どもたちと一緒に過ごすことは大変楽しく、笑顔をもらうのですが、時々小さい自分が現れて、その頃の気持ちを連れてきて、ふとその場にいたたまれない気持ちにさせられてしまうことがあります。

幼稚園に行きたがらない、集団の輪の中に入れない、幼稚園で喋れない、幼稚園のトイレに行けない等というような相談を受けることは少なくありません。そして多くの場合、時間をかけて自然に慣れるのを待った方がいいのか、大人が何か早く手を差し伸べた方がいいのかということが話題になります。その度に自分の時のことを思い出し、小さい自分はどうして欲しかったのだろう、どうすれば良かったのだろうと思いを巡らせることになります。正直、大人が手助けをしてくれたら楽だとは思うのですが、それでは子どもが自分でできるようになる力は育たないですし、依存的になってしまうことが心配です。だからといって時間をかけて待てばいずれ馴染めるようになるかというと保証はなく、いつも判断に迷うところです。子どもが自分で出来ていると実感できるように、自分でできる力が育っていくように、そっと影から支えられるのが理想と考えています。最近読んだ本の中にこんなエピソードがありました。雨の降るタクシー乗り場で、高熱の出た赤ちゃんを抱いて長い列に並んでいるお母さんに対して、ただ順番を譲ってあげるのではなく、母が自分で並んでいる人たちに向かって『順番を譲ってください』と言うように促したということです。優しい気持ちからつい代わりに言ってあげてしまいそうになる場面だと思いますが、今後自分でできるようになっていくようにと思っての気持ちからとのこと。ハッとさせられました。

幼稚園時代の私に対して、園の先生が間に入って他の子どもたちの遊びの輪に入れてもらったこともあったと思うのですが、余計居心地の悪さを感じたり、周囲に迷惑をかけている申し訳なさやできない自分に自己嫌悪を感じたり、子どもながらにみじめな気持になったことを憶えています。不登校になった小学生中学生からも同じような理由で「放っておいて欲しい」という言葉を聞くこともよくあります。だからといって、自分から何かアクションを起こすこともそう簡単にはできず、どこか助けを待っているところもあり、矛盾するところではあるのですが。

結局私の場合は、年長の時に同じアパートに引っ越してきた男の子とクラスも一緒になって仲良くなり、幼稚園を休むことも減っていきました。お互い集団は苦手な者同士2人で過ごすばかりでしたが、毎日のように園庭の片隅の排水溝で小石を使ってごっこ遊びをしていたのが一番楽しかった幼稚園の思い出です。そんな自分の経験から、気の合う友達といつかきっと、小学校中学校かもしれないけれど、出会うに違いないということは、どこか信じているところです。

大人目線になってしまうと、幼稚園の子どもはまだそんなに物事を深くは考えていないようについ思い違いをしてしまいそうになるのですが、外から見えている姿よりずっと、内面では大人と同じようなことを感じ考え始めていることを忘れないように心がけたいと思っています。幼稚園は人生で最初の社会です。初めての他人との集団生活の中で、周囲を見て、感じて、考えて、動いて、社会の中での自分の居場所を見つけていく大事な最初の経験の場になっていると思います。

自分自身の幼稚園時代を思い返すと、良かったことばかりではありませんでしたが、今では、そんな幼稚園時代があってこその今があると愛しく思えるようになりました。

1年間の ナイスショット特集

イェーイ！　誰だかわかるかな -

たこたこ、あ～が～れ～！

水　気持ちいい～！

わたしたちなかよしだもんね♡

ねえねえ～テープかしてよ～!!
ちょっと待ってー!!はやくう～!!

大根とったぞ!!

「ガァオー!!」すごいなー

ドッジボール大会、よーしぼくがとるよ～！

もの想いにふけるペイントマン

ママと一緒に木のシルエット、
どの木かわかるかな？

ほっぺでサンドウィッチ!?

はっしゃー！！

裸足になると気持ちいいよ！

へ～んしん

一泊保育！
かまきりみつけたよ

おいしいケーキできました。

おちばのふとん

ドキドキするなあ
はじめての日本の幼稚園

ちょっとひとやすみ

田んぼでどろんこたのしいな

静私幼だより
NO.170
2014.03.15

ナイスショット

ドキドキしたけど上手にいただけましたね!

よいしょ!よいしょ!

ミミズ、見ーつけた!
ミミズさんお口はどこ?

マグロ、大きい〜!

にんじんあまくておいしいね!

ほくほくの焼き芋!パクリ!

私たちの作った大根!!

ヤッター!みかん食べ放題

先生と"さよなら"するの、さびしいよ〜!

みてみて〜!!
大豆をひいてきなこ作り!!

【編集後記】

入園してから3年間一緒に過ごした子どもたちが卒園していきます。たくさんの友だちと遊びや生活をする中で、楽しさだけでなく、つらさ・苦しさ・さみしさ等マイナスの経験が子ども達の底力となり、強く逞しく育ててくれています。

ある時、手先の不器用なA君が苦労して編んだ手編みのマフラーがなくなってしまいました。クラスの仲間は他のクラスをまわり、「A君のマフラーを知りませんか?」と探してくれた。でも、見つかりませんでした。「皆んなが探してくれたから見つからなくてもいいよ、ありがとう」と言っていました。

5歳児でも、自分のさみしさやつらさを乗り越え、人の暖かい親切に感謝できています。とても素晴らしいと思いました。　多くの人の中でたくさんの経験と体験が人をしっかり育てていきます。まだまだ子ども達に教えてもらっている私です。

広報委員　有度幼稚園　梶山日出子

（表紙写真／リーチェル幼稚園）

発行人／相田芳久
編集人／座光寺　明
広報委員会

発行所／静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL.054(254)6820・FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷／(株)三創　レイアウト・イラスト／村松麗子

このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。